

授業概要

この授業では、日本の物語とその造形について取り上げる。日本には古くから多くの物語が作られ、それらは絵画や工芸品、能や歌舞伎など様々な形で受容されてきた。特に、『源氏物語』『伊勢物語』『平家物語』などは近世以降、様々な形で視覚化され、また、演じられてきた。現代に至っても映画やマンガ、ゲームなどの題材となっている。授業では、主に『源氏物語』『伊勢物語』『平家物語』を題材にした絵画や漆工、陶磁器、染織などを取り上げながら、日本の文芸と造形文化について講義する。

授業計画

| | |
|--------|------------------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | 『源氏物語』の絵画化—絵巻① |
| 第 3 回 | 『源氏物語』の絵画化—絵巻② |
| 第 4 回 | 『源氏物語』の絵画化—扇面、画帖、屏風 |
| 第 5 回 | 工芸品、染織品の中の『源氏物語』 |
| 第 6 回 | 浮世絵に見る『源氏物語』 |
| 第 7 回 | 『伊勢物語』の絵画化—絵巻、色紙など |
| 第 8 回 | 『伊勢物語』の絵画化—屏風 |
| 第 9 回 | 工芸品、染織品の中の『伊勢物語』 |
| 第 10 回 | 『平家物語』の絵画化—屏風① |
| 第 11 回 | 『平家物語』の絵画化—屏風② |
| 第 12 回 | 近代の『平家物語』の絵画① |
| 第 13 回 | 近代の『平家物語』の絵画② |
| 第 14 回 | 現代における古典文学の造形化—マンガ、アニメ、ゲームなど |
| 第 15 回 | 総括 |
| 第 16 回 | 筆記試験 |

到達目標

- ・造形や芸能を通して物語の基礎的な知識を習得できる。
- ・日本の豊かな文芸と造形文化に関心を持つことができる。
- ・美術館、博物館で絵画や工芸品を見たときに、その主題を理解することができる。

履修上の注意

- ・毎回コメントペーパーを配布するので、授業の終わりにその日の授業の感想や意見を書いて提出すること。
- ・私語、遅刻、途中退席をしないこと。

予習・復習

概要でかまわないので、対象の古典文学の内容をあらかじめ把握しておくこと。

評価方法

毎回のコメントペーパー（40%）、期末試験（50%）、受講態度（10%）で総合的に判断する。

テキスト

- ・資料を毎回配布する。
- ・参考文献を授業内で紹介する。